

2 0 1 9 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 溪 仁 会

2019年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所部門では、昨年度の深刻な介護職員不足も改善された体制で新年度を開始することができた。ご利用者の状況は年間入院数89名と、近年で最大数となり、またその中で複数回入退院を繰り返すご利用者が多く在園数を維持することが困難であり、目標収益に対する達成率は98%であった。入院の理由となる疾患については、4割強が肺炎であった。この結果に対しては、引き続きご利用者の健康管理の見直しと入院、退所等の状況に合わせた定数管理が求められる。

在宅部門では、4月末をもって居宅介護支援事業を閉鎖し「ケアプランセンターこころ円山」と統合。通所介護、訪問介護の2事業では職員の欠員が補充できないまま年度を経過した。事業実績としては、通所介護では定数管理を確実に、年度の収益目標に対し106%、訪問介護では、人員不足により新規受入れが困難な中で76%の達成率であった。

グループホームでは、前年度に比較し、介護職員の採用が順調でほぼ必要数を配置することができた。一方でご利用者の状況は、前年度に比較して事故件数、入院件数が増加。特に事故の内容では、転倒、誤飲等が目立ちこれまでのケアの根本的な見直しが必要となり、下期で問題点への対応を行った。またこれまで、施設内完結してしまい地域との交流がほぼないまま運営していたが、3施設での協力し、地域事業へご利用者と共に参加できたことは大きな評価点である。

入所・在宅部門双方で共通し、次年度のへの課題は、中間層の職員教育・育成と、ケア・業務改善への取り組みを強化することとを考えている。介護現場の職員組織の中で実際の教育、指示を行い、その日の業務の采配を行うのは、経験年数の長い職員や、主任、副主任の立場にある人達である。この組織の中間層の成長こそが日々の業務改善とケアの革新を遂げる機動力となると考えられる。新年度においてもリーダーを担える中間層の職員教育が求められる。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

2019年度は、経営改善をより具体的に行うために、経営管理部（経営管理課・施設管理課・相談課）とケア部（健康管理・生活支援課）による定例会議を開催。入退所の状況と新規の受け入れスケジュール、コスト管理を主な協議内容として実施。また、ブロック施設の「夢プロジェクト」として、上期に2つのワーキンググループにて「職員へ向けて」「地域へ」の2点に焦点を絞って企画を検討。その結果が「職員ランチミーティング」「地域カフェ」の下期開催となった。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘>

・医師：2名（内非常勤2名） 看護職員：10名（内非常勤3名）
 ・介護職員：82名（内非常勤8名） 生活相談員：6名（内施設CM兼務3名）
 ・介護支援専門員：3名（内非常勤1名） 介護予防：4名
 ・作業療法士：1名 言語聴覚士：0名
 ・理学療法士：2名（内非常勤1名） 管理栄養士：1名
 ・常勤ヘルパー：5名 非常勤ヘルパー：28名
 ・事務職員他：12名（内非常勤1名）
 ・合計職員数：156名（常勤職員112名、非常勤職員44名）

○2019年度職員異動状況（常勤職員）

・採用：13名（看護職員：1名、介護職員：6名、リハビリ職員：3名、予防センター：3名）
 ・退職：9名（看護職員：1名、介護職員：4名、リハビリ職員：2名、予防センター：2名）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加（施設職員参加状況）

・敬樹園：72回 ・通所介護：2回 ・訪問介護：5回 ・介護予防：4回
 西円山の丘：15回

○内部研修（ケア部）

・入所：事故防止 2回 感染予防 2回 抑制廃止／高齢者虐待防止 2回
 褥瘡予防 1回 緊急災害 1回
 ・その他：新人職員研修 1回 理念の浸透・運営方針 1回 個人衛生 1回
 施設サービス計画 1回 看取り研修 2回 ハラスメント研修 2回
 メンタルヘルス 1回

・敬樹園：8回 ・通所介護：5回 ・訪問介護：11回
 ・介護予防：7回 ・西円山の丘：11回

2019年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>43,920 人</u>	<u>43,034 人</u>
一日平均入所者数	<u>120.0 人</u>	<u>117.6 人</u>
入所待機者	<u>101 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.97</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,074 人</u>	<u>2,868 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.4 人</u>	<u>7.8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.13</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>6,168 人</u>	<u>6,275 人</u>
一日平均利用者数	<u>24.0 人</u>	<u>24.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>10,880回</u>	<u>8,993回</u>
（介護保険外）		<u>5,601回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>35.2回</u>	<u>29.0回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.1</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>140件</u>	<u>119件</u>
（うち介護予防）		<u>22件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.06</u> （要支援1・2を除く）	

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 50 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：2 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：25 件 その他：25 件（認知症・心身の健康・住まい）

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数（延べ）
介護予防教室	<u>178回</u>	<u>1,879 人</u>

（以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有）

転倒予防	<u>146回</u>	栄養改善	<u>5回</u>	口腔機能向上	<u>42回</u>
閉じこもり予防	<u>6回</u>	認知症予防	<u>137回</u>	疾病予防	<u>6回</u>
その他の介護予防 <u>17回</u> （体力測定・血圧測定）					

研修会・講演会	<u>3 回</u>	<u>132 人</u>
その他	<u>49 回</u>	<u>604 人</u>

(曙・幌西)

延相談件数 48 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：16 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：23 件 その他：20件（認知症・心身の健康・住まい）

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数（延べ）
介護予防教室	<u>103回</u>	<u>1,855 人</u>

（以下介護予防教室での実施内容内訳。重複有）

転倒予防	<u>87回</u>	栄養改善	<u>3回</u>	口腔機能向上	<u>17回</u>
閉じこもり予防	<u>6回</u>	認知症予防	<u>59回</u>	疾病予防	<u>7回</u>
その他の介護予防 <u>12回</u> （体力測定）					

研修会・講演会	<u>10 回</u>	<u>379 人</u>
その他	<u>55 回</u>	<u>996 人</u>

2019年度 事業報告

西円山の丘

【グループホーム：定員27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,767 人</u>	<u>9,331 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>25.5 人</u>
入所待機者	<u>24 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.18</u>	
協力医療機関	: <u>1. 札幌西円山病院</u>	

2019年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

2019年度においては、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）に「接遇」を加えた6Sの推進・向上と100%稼働への挑戦、更にはワークライフバランスへの取り組みを強化すべく、残業「0（ゼロ）」に向けた業務改善に努めて参りました。

収益額としましては、目標額に比べ14百万円下回った結果となり、100%稼働には程遠い収益額となってしまいましたが、職員未補充等により目標人件費額が△25百万円、事業費・事務費△5百万円程度削減が図られ、本部繰入を差し引いて約17百万円の当期活動収支差額となりました。人件費におきましては、「業務改善」に関する目標を、各部署・職員単位においてそれぞれ定めていただいた結果、ユニット介護職員を主に前年対比全体51.5%（約5百万円）の削減が図られ、同時に各部署において業務効率を更に高めていく観点から、ICT化の推進を検討し、次年度の導入に向けた体制づくりを行って参りました。しかしながら職員一人ひとりにおける能力格差や個々の責任感、仕事への取り組み姿勢等に違いが見受けられることは否めなく、特に通所介護事業においては、恒常的に時間外勤務となっていることなど、根本的な課題の解決に向けて次年度以降取り組んで参ります。

6Sの推進・向上につきましては、「あさがおセカンド」委員会主導の下、まずは清潔感を重視した身だしなみを念頭に、服装の在り方の検討や外部講師による傾聴に関する研修を行うなど、このことがのちの100%稼働に直結していくといった認識の共有を図って参りました。利用者・家族からのアンケート結果からは、接遇のみならず、ケアの質や職員による配慮不足等といった厳しいともとれるご意見をいただきましたので、これらの想いを一つひとつ真摯に受け止め、サービスの質の平準化を目指して参ります。

開設より嘱託医としてご尽力いただきました後藤・井井両医師が今年度をもって退かれ、新年度より新しい医師の下、施設運営として再出発を迎えていく中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、職員誰もが今までに経験したことが無い緊張感とストレスを抱えながらの日々となっておりますが、全職員が一丸となってこの難局を乗り越えて参りたいと思います。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

＜活動状況＞ 施設運営会議（毎月第4火曜日 参加者：管理者・各部署責任者）毎月の経営状況における課題等について協議

○内 容： 毎月における各事業の目標収益・支出（人件費・事業費・事務費）・一日平均利用者数の達成状況確認と検証、

加算算定状況の確認、平均要介護度の推移、人件費率及び利益率、新規加算算定取得に向けた目標数値の達成度確認など

○実績（延利用者数 等）

入所：達成率94.1% ※稼働率同様 新規23名、退居22名（うち看取り6名） 延入院日数1,718日

短期：達成率125.6% ※稼働率63.0% DSとの併用利用者4名

通所：達成率95.5% ※稼働率77.4% 新規45名、体験74名、増回24名、中止31名 要介護度比率64.4%

○加算取得状況

入所：生活機能向上連携加算算定 通所：生活機能向上連携加算及び事業所評価加算（総合事業）算定

○費用

利用者数減に伴う給食関連費の減少、暖冬による水道光熱費（ロードヒーティング）の減少、施設内一部LED化による賃借料の増加。

＜今後の展開＞

業務委託費（給食関連及び清掃・施設管理業務）の増額要請と経年劣化による修繕費増加を含め支出の増加が見込まれるが、新年度からの嘱託医の交代により、施設運営の理解の下、高齢者医療の判断や看取りケアの再アプローチを含め、入居者による入院日数の減少につなげていきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況【合計職員数94名】

特養・短期：管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員6名、介護職員56名（内非常勤6名、介護アシスタント11名）

生活相談員2名、介護支援専門員1名、作業療法士1名、栄養士（管理栄養士含む）2名、事務職員3名

※産前産後・育児休業取得者4名含む（介護職員）

通所：管理者1名、生活相談員2名（介護職員兼務）、介護職員6名（内非常勤2名）、看護師3名（内非常勤1名）、運転手4名 他

○2019年度職員採用・退職等状況

採用：14名【看護職員2名（通所）、介護職員10名（内通所2名）、作業療法士1名、事務員1名】※内派遣5名

退職：14名【看護職員1名（通所）、介護職員10名（内通所6名）、作業療法士1名、事務員1名、運転手1名】※内派遣5名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（法人本部・溪仁会グループ内研修含む）

道・市老協・デイ協（老人福祉施設長研究セミナー・インターネット研修他）、法人役員・施設長研修（道社協）医療安全講習会（保健所）、主治医研修・管理者向け交流研修（札幌市）、日本褥瘡学会在宅ケア推進協会、ユニットリーダー研修 他

○内部研修実施状況

褥瘡予防基礎研修（講師：札幌ハートセンター皮膚・排泄ケア認定看護師 畠山氏）、接遇研修傾聴セミナー（講師：山田尚子氏）

○会議等～北海道及び札幌市老協幹事会、生活相談員研究会、赤い羽根共同募金会、運営推進会議（グループホーム） 等

○その他～日本褥瘡学会北海道地方会学術集会、道老協研究発表会、溪仁会グループ研究発表会（3演題）において発表

その他法人内研修における講師及び近隣グループホームの運営推進会議へ参加

2019年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>29,280 人</u>	<u>27,562 人</u>
一日平均入所者数	<u>80.0 人</u>	<u>75.3 人</u>
入所待機者	<u>106 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.8</u>	
協力医療機関	： <u>1. ごとう内科クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 札幌朗愛会病院</u>	
	<u>4. 大谷地病院 ※精神科医師療養指導あり</u>	

【短期入所生活介護：定員8名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,464 人</u>	<u>1,839 人</u>
一日平均入所者数	<u>4.0 人</u>	<u>5.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.5</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：一般型45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>9,383 人</u>	<u>8,957 人</u>
一日平均利用者数	<u>36.5 人</u>	<u>34.7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.5</u> （要支援1・2を除く）	

2019年度 事業報告

施設名： 岩内ふれ愛の郷

1. 総括

「岩内コミュニティの丘」と総称しコミュニティホーム岩内と岩内ふれ愛の郷の2つの施設が連帯感を持った一体経営に向けてより具体的に人事異動、合同研修会を開催する事ができた。また、昨年同様入居サービスを中心に稼働率100%を目標に掲げ、結果目標の稼働率を上回る事ができた。しかし、人材不足（特に介護・看護職員）の課題は継続して挙げられ、勤務時間外が増加傾向になった。今後、効果的な離職防止対策・業務見直し等を推進していきたい。また、家族や地域住民との交流も促進していきたい。

1. 入所においては一日平均入所者数50.1名と目標数を達成する事ができた。入退所に関して迅速に対応できたことが大きい。
2. 短期入所生活介護に関しても、ほぼ目標数を達成する事ができた。入所同様に迅速対応と老健・居宅（さつき）との連携が図れた事が要因である。
3. 日常生活維持継続支援加算Ⅰが算定できた事で収入増となった。
4. 職員確保については、配置基準は満たしているものの介護職員数が不足していた。現在、コミュニティホーム岩内と連携し職員異動及び採用を継続して実施していく。
5. 家族や地域との交流を深めるために「ふれあいカフェ（認知症カフェ）」を開催。今後も継続して実施し交流を深めていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. コミュニティホーム岩内と合同で各役職者、参加し経営改善に向けて「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」を月1回開催。
2. 岩内ふれ愛の郷単独で役職者会議・職員全体会議を月1回実施。職員会議では、現場での検討課題を中心に議論。

<成果>

- ・ コミ岩（老健）の待機者が、定期的に短期入所生活介護を利用していただくよう対応できた。
- ・ 一体経営に向けてふれ愛・コミ岩の職員合同研修の開催が増加。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率に向けた目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 今後も2つの施設が連帯感を持った一体経営に向けてより具体的に効率的に経営改善を図っていきたい。
- ・ 長期にわたり人材不足が続いている状況である。効果的な応募・離職防止対策等を推進していきたい

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

管理者1名 医師1名（嘱託） 介護職員29名（内非常勤7名） 看護職員5名（内非常勤1名）
管理栄養士1名 事務職員2名（内非常勤1名） 生活相談員2名 介護支援専門員1名
介護補助8名（内非常勤8名）
合 計：50名

○2019年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：5名【看護職員1名 介護職員4名】異動：7名【管理者1名 介護職員5名 看護職員1名】
退職：5名【管理者1名 看護職員1名 介護職員3名】 育児休業：1名 病欠：2名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援主催研修含）参加者延28名

地域医療連携セミナー 認知症介護者研修 北海道高齢者虐待防止推進研修会 感染症研修（岩内町）
溪仁会グループ研究発表会 溪仁会グループ主催研修会 その他法人本部研修

○施設内研修参加状況 開催回数延19回

おなかの調子を整える 結核（感染予防）について フェードバック（虐待予防）研修 リスクマネジメント研修
嘔吐物（感染予防）処理研修 防災研修 看取り研修 接遇研修 腰痛予防研修 感染対策研修
虐待防止研修 事例検討会 その他

○コミ岩合同研修 開催回数延13回

防犯研修 メンタルヘルス研修 腰痛予防研修 AED救急救命研修 接遇研修 HIV研修
シーティング・ポジショニング研修 介護現場におけるリスクマネジメント研修 オムツのあて方研修
第2回研究発表会

2019年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】

	目 標	実 績
延入所人数	<u>18,300 人</u>	<u>18,346 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>50.1 人</u>
入所待機者	<u>3 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.9</u>	
協力医療機関	： <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村茅沼診療所</u>	
	<u>2. 岩内協会病院</u>	
	<u>3. にしざき歯科医院</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,481 人</u>	<u>3,374 人</u>
一日平均入所者数	<u>9.5 人</u>	<u>9.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.78</u> （要支援1・2を除く）	

2019年度 事業報告

施設名：きもべつ喜らめきの郷・るすつ銀河の杜

1. 総括

2018年9月から稼働率を抑えた運営となっていたが、2019年4月から7ユニット稼働を再開、年度途中には74ベッド稼働となった。年度当初の目標としては下期には80ベッドの稼働を見込んでいたものの、年度を通してその目標は達成できず、また5月からの給食委託費用の契約更新による値上げ予算した数値との大きな開きが出てしまった。介護職員の離職（2018年度18名、2019年12名）に一定の歯止めは利いたものの、依然として職員確保が経営上の最優先課題であることは明確で、次年度も引き続きの求人活動を実施する。2020年4月中旬からは76ベッドの稼働を予定し、職員の採用状況を見ながらではあるが、年度の早期に80ベッド稼働を実現したい。今後も過疎地域の人口減少はさらに厳しい状況となるが、業務委託やアクティブシニアの活用、本部及び法人内各施設との連携、外国人技能実習生の更なる受入れ等により打開策を見つけていきたい。又、在宅部門においては、年度途中で管理者を変更した居宅介護支援事業所の運営も軌道に乗っており、通所介護においてもほぼ予算どおりの結果となった。又、短期入所の受入れも前年度以上の受入れ実績を残したことから、次年度においても各事業所間の連携を強化し、在宅サービスの利用者増を目標とする。人財不足の中にあっても前向きに課題に取り組み、サービスの質を向上させるチャレンジを継続しつつ、地域ニーズも考慮した将来的な展望を視野に、柔軟な発想で今後の方向性についても検討が必要となる。今後も中長期的な視野で、施設運営の基盤固めと、ICT等（介護ロボット補助金を活用したシルエットセンサー導入済み）を活用した業務の効率化、地域の高齢者や主婦層、外国人も含めた人財確保策の推進、更には2021年度介護報酬改定に伴う加算取得等の情報収集及び対策にも積極的に取り組んでいきたい。

2019年9月に実施された監査及び施設調査では、虐待の認定はされなかったものの、高齢者虐待に関連した文書指導を受けた。これにより施設内での接遇の向上と合わせて虐待防止に対する意識の向上と、万が一、疑わしい事案が発生した場合の報告や相談の体制を職員全体と共有した。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第3水曜日（16：30～）開催。 ※施設運営会議にて検討中。

1) 効率的な人員配置と業務と改善

- ・経過記録等のPC入力（LM-WINCARAへの移行、タブレット活用の検討等）
- ・効率的な勤務シフト及び部署間連携の検討
- ・スポット就労及び業務委託の検討
- ・入居者のユニット再稼働（2019年4月60ベッドから70ベッド）

2) 各種加算の算定（両施設）

- ・「日常生活継続支援加算」算定。・「認知症専門ケア加算Ⅰ」算定。
- ・看取り介護加算（喜4名、留2名）算定。
- ・今後も、「認知症専門ケア加算Ⅰ」の継続取得に向け、「認知症実践者研修」及び「認知症実践リーダー研修」への積極的な研修参加を支援していく。

3) 費用等の見直し

- ・給食委託業者の人材確保難により2019年5月から契約変更による単価増のため施設負担が増大。

4) その他

- ・人財確保策として、外国人技能実習生の受け入れや職員確保のための更なる住宅等の体制の整備を実施。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況 総職員数 103名（喜茂別68名、留寿都35名）

非常勤医師1名、看護職員7名（内非常勤1名）、介護職員65名（内非常勤8名、派遣2名）、生活相談員兼介護支援専門員4名、管理者兼生活相談員1名、管理栄養士2名、訪問介護員3名、事務職員他7名（内非常勤1名）

○2019年度職員異動状況

採用27名【介護職員16名（内新卒2名、正職員2名、契約13名、非常勤0名）、看護職員7名、事務職員2名、管理栄養士1名】
退職19名【介護職員12名（内正職員2名、契約10名）看護職員6名、訪問介護員1名 管理栄養士1名】
異動 転入3名【カムヒル、GH西門山の丘、CH岩内】 転出3名【敬樹園、月寒、あおば】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：15延べ316名参加

リスクマネジメント、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、接遇等

○外部研修参加回数：喜43回延べ51名 留20回延べ20名

認知症介護実践者研修、介護職員実務者研修、技能実習責任者講習後志老協研修、溪仁会グループ及び本部主催研修等

○今後も各委員会を中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会作っていく。

2019年度 事業報告

きもべつ喜らめきの郷

【入所：定員80名（短期入所込み）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>26,650 人</u>	<u>24,228 人</u>
一日平均入所者数	<u>73.0 人</u>	<u>66.2 人</u>
入所待機者	<u>4 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.60</u>	
協力医療機関	： <u>1. 喜茂別町立クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 喜茂別歯科</u>	
	<u>5. ふじ歯科クリニック</u>	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>490回</u>	<u>218 回</u>
（介護予防）		<u>回</u>
（総合事業）		<u>348 回</u>
（障がい）		<u>100 回</u>
（制度外）		<u>11 回</u>
一日平均利用回数（介護保険・総合事業）	<u>2.0 回</u>	<u>2.3 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.30</u> （要支援1・2を除く）	

2019年度 事業報告

るすつ銀河の杜

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,431 人</u>	<u>10,194 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.90 人</u>
入所待機者	<u>1 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.52</u>	
協力医療機関	： <u>1. 留寿都診療所</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 洞爺温泉病院</u>	
	<u>4. 留寿都歯科診療所</u>	

【通所介護：地域密着型10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>1,691 人</u>	<u>1,334 人</u>
一日平均利用者数	<u>6.90 人</u>	<u>5.50 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.3</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>420 件</u>	<u>535 件</u>
(うち介護予防)		<u>22 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

2019年度 事業報告

施設名：手稲つむぎの杜

1. 総括

○2019年度の総括

開設6年目を迎えた2019年度は、社会福祉法人溪仁会の経営基本方針に沿って『ガバナンス体制の強化』『安定的な経営体制の構築』『人材確保・定着と人材教育の推進』『地域包括ケアの推進』を4つの柱として施設運営方針を掲げ、全職員が共有し、事業の着実な推進に取り組んだ。溪仁会グループに期待される使命並びに地域包括ケアシステムを見据え、10月には『小規模多機能型居宅介護つむぎ』を予定どおり開設し、地域福祉の発展に一層貢献できる体制を整備することができた。また、その他各項目においても、計画的に推進し、総じて2019年度の目標は達成されたものと考えている。

今後においても、効果的な職員の離職防止対策や働き手が減少する中での業務の見直し等「働き方改革」を推進するとともに、手稲つむぎの杜ブロックの中長期的な運営・経営を意識したなかで、引き続き地域に根ざした公益的取組み・サービス展開を推進していくこととする。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況> 施設運営会議・つむぎプロジェクト会議（原則毎月第4金曜日）にて、課題の検証と対策を協議

○利用者の確保

入所：年間新規20名、稼働率99.1%、入居者の重度化により年間を通し退居者が多かったものの（看取り17名、入院退居4名）、スムーズな入退居調整により安定的なベッドコントロールができた。年間空床数262日。

短期：年間新規43名、稼働率81.1%、手稲区内居宅介護支援事業所を中心に安定的に利用者を紹介頂き、目標Ave並びに延利用者数ともに予算達成。通所並びに認知通所利用者のレスパイト利用も多く、事業所間の連携も図れた。

通所：年間新規61名、稼働率80.5%、新規利用者の積極的な受入（前年度比35.6%増）により高い稼働率維持するも小規模多機能型居宅介護への利用者移行や年度末には新型コロナウイルスによる利用控え等もあり予算延利用者数未達。

認知：年間新規12名、稼働率77.0%、小規模多機能型居宅介護への利用者移行あるも新規利用者受入により、目標Ave並びに延利用者・収益ともに予算達成。

小多機：年間新規16名、稼働率54.3%（年度末登録定員18名に対し）、予定どおり10月に事業開始し年度末登録者14名、目標Ave・延利用者・収益ともに未達も、費用にて調整、開設初年度の損益においてはほぼ予算通りで推移。

居宅：年間新規59名（前年度比31.1%増）も、延利用者数・収益ともに予算に届かず。小規模多機能型居宅介護への利用者移行等施設内各事業所とのスムーズな連携により、各事業所の利用者確保にも大きく貢献。

予防：4月より2名体制にてすこやか倶楽部等予防事業を中心に尽力。年度内相談員の欠員等発生も地域との連携、施設ギャラリースペースへの展示等、施設運営にも大きく貢献。

障害：年度内相談支援専門員の退職・異動に伴う欠員発生も、委託・計画相談ともに安定的に推移。事業損益においても黒字化維持。

○各種加算の算定

入所においては「日常生活継続支援加算（Ⅱ）」、短期・通所・認知通所においては「サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ」を継続算定。新規事業の小多機においても、体制整備を進め年度後半より「訪問体制強化加算」「サービス提供体制強化加算（Ⅰ）イ」を算定開始。生活機能向上連携加算（入所・通所・認知通所）の継続算定、その他、入所においては、療養食加算、経口維持加算、看取り加算等、通所においては、個別機能訓練加算（Ⅱ）等の算定により、単価維持・上昇に努めた。

○水道光熱費及び費用の見直し

水道光熱費は単価の上昇等あるも前年度比▲2,125千円、使用量においても主要4種のうち3種において削減（前年度比ガス+2.5%、電気▲8.3%、融雪電力▲7.8%、水道▲1.4%）が図れた。施設内照明器具のLED化が電気使用量削減に寄与したと思われる。

○2020年度に向けて

取得可能加算の体制整備と併せ、業務整理・働き方改革も進め、最小の費用で最大の効果を生むことができるよう一層の経営改善に努める。2020年度より入所においては、「認知症専門ケア加算Ⅰ」並びに「口腔衛生管理加算」算定予定。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日現在 職員状況 全事業合計139名（内非常勤38名、派遣7名）

入所・短期：管理者1名、医師1名（非常勤）、看護職員7名（内非常勤3名）、介護職員57名（内非常勤11名、派遣7名）、
介護支援専門員1名、理学療法士1名、管理栄養士1名、生活相談員3名、事務職員3名 ・計75名

通所・認知：管理者2名、看護職員4名（内非常勤3名）、介護職員35名（内非常勤18名）、作業療法士1名、
運転職員2名（非常勤） ・計44名

小多機：管理者1名、介護支援専門員1名、看護職員1名、介護職員7名 ・計10名

居宅・予防：管理者2名、介護支援専門員4名、相談職員1名 ・計7名

障害：管理者1名（入所管理者兼務）、相談支援専門員3名 ・計3名

○2019年度職員採用・退職等状況（※派遣職員除く）

採用：28名【看護職員5名（入所3名、通所2名）、介護職員19名（入所7名、通所7名、小多機5名）、相談職員2名（居宅1名、
予防1名）、事務職員他2名（入所）】

退職：25名【看護職員5名（入所3名、通所2名）、介護職員12名（入所9名、通所3名）、相談職員3名（予防2名、障がい1名）、
事務職員他3名（入所2名、通所1名）】

異動：4名【相談職員2名（入所）西門山敬樹園より1名、（障がい）青葉ハーティケアセンターへ1名、
介護職員2名（入所）コミュニティホーム白石より1名、（通所）菊水こまの郷より1名】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ・キャリア支援課主催研修含む）※参加回数95回、延203名参加

認知症介護実践者・実践リーダー研修、老人福祉施設研究大会、グループ研究発表会、主任介護支援専門員研修、中堅管理職講座 他

○内部研修実施状況 ※開催回数24回、延228名参加

感染対策研修、虐待防止研修、事故防止研修、褥瘡予防研修、看取りケア研修、接遇研修、ユニットケア研修、事例検討会 他

2019年度 事業報告

手稲つむぎの杜

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,914 人</u>	<u>29,018 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>79.3 人</u>
入所待機者	<u>79 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.29</u>	
協力医療機関	： <u>1. 手稲溪仁会病院</u>	
	<u>2. 手稲家庭医療クリニック</u>	
	<u>3. 安永歯科</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,928 人</u>	<u>2,967 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>8.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.55</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>16,995 人</u>	<u>16,174 人</u>
一日平均利用者数	<u>55.0 人</u>	<u>52.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.69</u> (要支援1・2を除く)	

【通所介護：認知症対応型12名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2,782 人</u>	<u>2,855 人</u>
一日平均利用者数	<u>9.0 人</u>	<u>9.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.15</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,731 件</u>	<u>1,549 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.84</u>	
訪問調査件数		<u>61 件</u>

(まえだ)

相談内容（重複有）

介護予防： 28 件 その他： 22 件

実施回数

参加者数

9 4 9 人

0 人

0 人

0 人

2 人

目標

実績

1, 789 人

※延宿泊数 232 人

一日平均登録者数 14.0 人 9.8 人

要介護度状況 : 平均要介護度 2.14 (要支援1・2を除く)

【障がい者相談支援事業】

◇委託相談支援事業

新規登録者：107名 登録抹消者：43名 年度末登録者数：353名

■相談員1人につき117名 担当(職員3名)

(地区別) 北区：2名 清田区：1名
西区：8名 手稲区：344名

(障がい種別) 身体：63名 重心：5名 知的：135名 精神：95名
発達：34名 高次脳：1名 難病：4名 その他：18名

(児・者別) 障がい児：82名 障がい者：271名

支援方法 訪問：863件 来所：197件 同行：214件
電話：1,618件 ケア会議：132件
関係機関：2,529件 メール：305件 その他：108件
合計：5,966件

支援分類	福祉サービスの利用に関する支援	4,738件
	障がいや病状の理解に関する支援	115件
	健康・医療に関する支援	283件
	不安の解消・情緒安定に関する支援	213件
	保育・教育に関する支援	23件
	家族関係・人間関係に関する支援	113件
	家計、経済に関する支援	151件
	生活技術に関する支援	108件
	就労に関する支援	151件
	社会参加・余暇活動に関する支援	15件
	権利擁護に関する支援	56件
	<u>合計：5,966件</u>	

◇指定相談支援事業（サービス等利用計画）

契約者総人数 障がい者：58件 障がい児：20件

2019年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

特養に関しては、昨年同様平均介護度（4.32）が高く、医療ニーズの高い入居者が多く入退院が多かった。お一人の利用者が複数回入院するケースが多く、新規入居時の精査や日頃の病状把握が課題となった。そのため昨年度より退居者数は多く（11名）、アベレージの低下へと繋がった。（一日平均入居者数：2018年度：28.38名 2019年度28.01名）

小規模多機能型居宅介護は、サテライト型小規模多機能ホームるびなすが4月に開設。現在は18名の満床となっている。（年間アベレージ11.5）本体施設については、るびなすへの利用者移行等行い全体的な稼働率が落ちている。（年間アベレージ27.3）また、高介護度の利用者受入に特化した為、入退院が多く安定利用とはならなかった。

全体として今年度稼働率100%達成の為、受入対象を含め検討していく必要があると考えている。

事故（15件）・苦情（2件）に関して、事故については圧倒的に誤薬事故件数が多かったが、重大な事故に繋がったケースは無い。服薬マニュアルの見直し、修正を行い改善に努めていく。苦情は2件あり、共に車両に関する苦情。1件は右折時の運転マナーのため、対象者の運転評価等行っている。1件はおおり運転を指摘されてのケース。ドライブレコーダーを昨年度全車に導入し、状況を確認・評価した結果、当施設としては問題なし。しかし、そういった連絡が来るような隙があったことを反省し施設全体に周知している。リスクゼロに向けて、ヒヤリ・ハットから対応を徹底していく。

施設内外研修に関しても計画通りに実施・参加できた事は評価できる。

人財難については年間通して苦しい状況であった。今後も人員確保について大きな課題であるとする。有休取得や業務改善を通して離職ゼロを目指しつつ、安定した採用を目指していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>：毎月第3月曜日（14：00～）開催

- 1) 各事業所の稼働率向上について。
- 2) 職員募集・新人介護職員教育等について（離職防止も含め）
- 3) 兼任可能施設職員の在り方について
- 4) その他

<成果>

- 1) 特養についてはご利用者に対し病状の管理、ケアの質の向上を検討。小規模に関しては白石区第3包括支援センターから定期的な紹介等もあり稼働率維持をすすめている。
- 2) 定期的にマニュアルを見直し、新人介護職員の勉強会等で使用。個人面談の回数を増やし業務内での不安や悩み等確認できた。
- 3) 地域密着サービスの特徴をしっかりと活かし、各職種（介護福祉士・介護支援専門員）の常勤換算等条件を満たしながら、特養・小規模多機能型居宅介護、同一敷地内での兼務可能な職員を多くして、より効率的にシフト調整ができるようになった。
- 4) 年度末は感染症対策、誤薬事故対応について話し合い、マニュアルの改訂に努めた。

2月～3月は感染症対策について検討をすすめた。水際対策から発生時の対策について方針の決定やマニュアルの見直しを行う。

<今後の展開>

小規模多機能型居宅介護、るびなすの連携を密に行い、安定経営を目指す。また、入居に関しては中重度要介護者・認知症高齢者の受入が基本となる。そのためにも専門性の向上と業務の効率化を図っていきたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

医師1名（非常勤）、看護職員4名、介護職員44名（派遣9名）、生活相談員1名、管理栄養士1名、介護支援専門員3名、リハビリ1名、事務職員他2名、合計57名（非常勤8名、派遣9名、産休2名）

○2019年度職員異動状況

採用29名【介護職員26名（非常勤6名、派遣17名）・栄養士1名（非常勤）・リハビリ1名（非常勤）・看護職員1名】
退職24名【介護職員22名（非常勤4名、派遣15名）・看護職員1名・栄養士1名（非常勤）】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：13回、延313名参加 外部講師2回依頼

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、看取りケア 等

○外部研修実施回数：45回、延46名参加

介護初任者研修、実務者、小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修、死生観、安全運転管理者、認知症介護実践者、認知症介護実践リーダー、アンガーマネジメント、全国老人福祉施設研究会議、ユニットリーダー、介護リーダー
急変時対応セミナー、接遇、虐待防止、服薬 その他

○2020年度も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修参加の機会を作っていく。特に、内部研修ではグループ等の協力を得て外部講師を多く依頼しての研修を実施していきたい。（新型コロナウイルスの状況により要検討）

2019年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,537 人</u>	<u>10,252 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.8 人</u>	<u>28.0 人</u>
入所待機者	<u>58 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 4.32</u>	
協力医療機関	： <u>1. 広川内科クリニック</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u> <u>4.</u> <u>5.</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>10,431 人</u>	<u>9,988 人</u>
※延通い利用者数		<u>4,813 人</u>
※延宿泊数		<u>1,494 人</u>
※延訪問数		<u>5,295 人</u>
一日平均登録者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.16</u>	

【小規模多機能ホームるぴなす：登録者定員18名（通い定員9名、宿泊3名）】

目標

実績

延登録者数

4, 831 人

4, 024 人

※延通い利用者数

1, 3 4 2 人

※延宿泊数

14 人

※延訪問数

1, 721 人

一日平均登録者数

13. 2 人

1 1 . 0 人

要介護度状況 : 平均要介護度 1.12

2019年度 事業報告

施設名： カームヒル西円山

1. 総括

特定入居者生活介護登録者は、アベレージ44.1名（目標43名）にて目標達成。一日平均入所者数は98.8名（目標100名）、平均介護度は要介護1.2にて平均単価が上がり、経常利益は予算を上回ることが出来た。職員の退職もなかった。

しかし、一般・特定両方の心身の機能低下があり、転倒骨折の増加・認知症が重度化してきている。転倒、骨折、リハビリ入院等は計8名となり、安定した入居率を維持するためには入院、退所の件数を抑えて行きたい。その為には介護予防、閉じこもり予防、機能訓練などを強化し、入居期間の延長を図りたい。

地域活動では、敬樹園ブロックとして町内会活動や近隣の障がい者施設、児童会館などとの共同企画にて連携が図れている。カームヒルの知名度の向上につながっている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

「役職者会議」月1回開催

参加メンバー：施設長、経営管理課長、介護課長、相談主任、介護主任、介護副主任、看護副主任、経営管理主任

内容：一般・特定の在籍数や月ごとの経費執行状況について報告・協議。その後の職員会議でも実績報告を行う。

<成果>

経営状況を役職者で共有でき、一般から特定への変更や住み替えの相談など、経営状況を意識した入居者調整が出来ている。個別ケースの共有も図っているが、担当者会議へとつなげていきたい。

<今後の展開>

経営を意識した運営の継続をするため、介護報酬での収支を常に確認していく。入退院や住み替えを減らしていくため、閉じこもり・介護予防活動を強化していきたい。また、一般の入居者の個別支援計画を立案し（全ケース目標）、早めの課題整理、対応を行い、入居期間が延長できる様にしていきたい。

地域活動は前年度を踏襲し、引き続き敬樹園ブロックとして地域に関わり、CSRの充実に向け、全職員の地域活動への参加を促していく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

看護職員：2名、介護職員：14名、相談員：2名、栄養士1名、事務職員等：2名、合計：21名

○2019年度職員採用・退職等状況

退職⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

採用⇒看護職員：0名、介護職員：1名、相談員：0名

異動⇒看護職員：0名、介護職員：0名、栄養士：1名

4. 研修参加・実施状況

○参加：49回 参加者：延べ136名

外部研修：老人福祉施設協議会・全国軽費老人ホーム協議会・北海道社会福祉協議会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、事故防止対策研修、施設内認知症勉強会等

2019年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,600 人</u>	<u>36,173 人</u>
（うち特定入居者）		<u>16,143 人</u>
一日平均入所者数	<u>100 人</u>	<u>98.8 人</u>
（うち特定入居者）		<u>44.1 人</u>

入所待機者（3月末現在）個人：95 人 夫婦：12 人 うち特定：16 人
（要支援1・2を含む）

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.0 （要支援1・2を含む）

協力医療機関 ： 1. 札幌西円山病院

2019年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム白石・白石の郷

1. 総括

2019年度はコミュニティホーム白石開設30周年の節目の1年であり、あらためて地域とのつながり強化を意識した1年でした。開設30周年を記念するイベントとして9月28日に開催した「つながる地域フェスタ in 白石」（北海道主催の「介護のしごと魅力アップ推進事業」）は、2018年8月から本郷商店街振興組合や白石区体育館の皆さんに相談を開始し、本格的に準備をすすめた5月以降には白石中学校や地元企業及び介護事業所等に参加協力を呼びかけて多くの協力を得ることができました。会場となった白石区体育館には地域住民450名が来場し、法人各施設からの応援をいただきながら、賑わいの中にも白石の介護事情を発信できたと思います。今回のイベントを通して得ることができた地域とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

経営面では、母体である老人保健施設の「超強化型算定」を最大の目標としました。在宅復帰率、ベッド回転率の算定要件を維持しつつ、介護度4又は5の重度者の割合を少しずつ高めて9月利用分から年度末まで「超強化型」を算定することができました。超強化型を算定できたことで、入所単価が予算を大きく上回り収益増加に繋げることができました。

また、10月からは介護助手事業（介護職機能分化等推進事業）に参加し、12月に地域住民8名を介護助手（非常勤）として採用しました。ベトナム人留学生2名のアルバイトとともに介護職員が行っていた周辺業務を担っています。介護職員が慢性的に不足するなかで、多様な働き方を取り入れることで介護職員の負担軽減とモチベーション向上につなげていきたいと考えます。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

開催日： 毎月1回、第3月曜日に定例開催。

参加者： 施設長、経営管理部長、施設ケア部長、リハビリテーション部長、経営管理部次長、支援相談課長、施設管理課長の7名。

内 容： 利用稼働率（老健入所、通所）の確認、超強化型算定への協議（在宅復帰率、ベッド回転率、他算定要件の確認）、新規加算の算定に向けた検討、BSCアクションプラン実施に向けた検討、その他運営上の課題について協議。

<成 果>

- 1 老人保健施設は、2019年9月分から「超強化型」を算定し、2020年3月分まで維持することができた。
- 2 老人保健施設入所、及び通所サービスの稼働率は目標には僅かに届かなかったが前年度実績を上回ることができた。
- 3 2019年度BSCにおけるアクションプランの実施をリードした。（スケジュール化、企画立案等）
- 4 白石内事例発表会に2020年度から全部署が参加することの合意形成を図った。

<今後の展開>

経営改善プロジェクト会議は、これまで通り白石の運営方針策定やBSC運用に際して重要な位置付けとなります。特に、2020年度は新型コロナウイルス感染症の猛威のなかでスタートし、未だ終息のかたちが見えてこない状況です。状況の変化を確実に捉えて、マイナスの影響度を最小限に食い止めるための運営に努めてまいります。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

医師1名、看護職員19名、介護職員91名、相談職員36名、介護支援専門員8名、療法士19名、管理栄養士1名、事務職員他30名、非常勤ヘルパー8名 合計213名 ※産休・育児休業4名、育児短時間勤務6名

○2019年度職員異動状況

採用：40名（看護職員 2名、介護職員19名、相談職員 5名、療法士 5名、事務職員他 9名）

退職：31名（看護職員 2名、介護職員23名、相談職員 5名、療法士 1名）

転入： 1名（事務職員 1名）

転出： 3名（相談職員 1名、介護職員 2名）

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延36名参加 ○溪仁会グループ研究発表会：6演題発表、45名参加

○社会福祉法人本部主催研修会：延34名参加

○北海道老人保健施設大会：1演題発表、6名参加 ○全国老人保健施設大会：2演題発表、3名参加

○外部研修：「認知症実践者及びリーダー研修」4名参加、「北海道抑制廃止研究会」1名参加、「高齢者虐待防止研修会」2名参加、「社会福祉施設等防火・救命実務研修会」5名参加、「第53回日本作業療法学会」1名参加、「全国終末期リハケア研究大会」1名参加、「第7回北海道神経難病リハビリテーション研究会」1名参加、他（合計延238名が参加）

○内部研修（全体研修）：「防災研修会」58名参加、「安全運転講習会」42名参加、「認知症サポーター養成講座」13名参加、「カンフォータブルケア研修会」を3回開催し延100名参加、「食中毒予防研修会」70名参加、「感染症予防研修会」54名参加、「各部署の感染症防止の取り組み発表会（ランチミーティング形式）」を2回開催し62名参加、

各部署による「事例発表会」を2回開催し14題発表、他

○その他、部署毎に研修計画を作成し部内研修会及び伝達講習会を多数実施しました。

2019年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	34,675 人	34,521 人
一日平均入所者数	95.0 人	94.3 人
入所待機者	17 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.9（短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 札幌西円山病院	
	2. 白石中央病院	
	3. 札幌ひばりが丘病院	
	4. 東札幌病院	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	10,181 人	9,798 人
一日平均利用者数	41.5 人	40.3 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.1（要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員19名】

	目 標	実 績
延入所者数	6,148 人	5,967 人

一日平均入所者数 16.8 人 16.3 人

要介護度状況 ： 平均要介護度 2.2 （要支援1・2を除く）

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>7,114 回</u>	<u>5,449 回</u>
（介護保険外）		<u>1,311 回</u>

一日平均利用回数（介護保険） 23.0 回 17.6 回

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.4 （要支援1・2を除く）

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>3,534 回</u>	<u>3,606 回</u>
（介護保険外）		<u>0 回</u>

一日平均利用回数（介護保険） 14.5 回 14.8 回

要介護度状況 ： 平均要介護度 2.9 （要支援1・2を除く）

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,280 件</u>	<u>2,361 件</u>
（うち介護予防）		<u>86 件</u>

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.5 （要支援1・2を除く）

【第1地域包括支援センター】

延相談件数 771 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：562 件 権利擁護：9 件 高齢者虐待：5 件

介護予防：6 件 その他の保健福祉サービス：7 件

認知症に関すること：54 件 消費者被害に関すること：2 件

住まいに関すること：47 件 心身の健康に関すること：9 件

家族の疾病・障がいに関すること：12 件 その他：107 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>12</u> 回	<u>0</u> 回
個別地域ケア会議の準備会	<u>7</u> 回	<u>0</u> 回
地区地域ケア会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
地区連絡会議	<u>11</u> 回	<u>0</u> 回
区地域ケア推進会議	<u>2</u> 回	<u>0</u> 回
区連絡会議	<u>11</u> 回	<u>0</u> 回
その他のケース検討会議	<u>0</u> 回	<u>5</u> 回
運営推進会議等	<u>0</u> 回	<u>78</u> 回
地区組織との連携	<u>8</u> 回	<u>20</u> 回
医療機関との連携	<u>16</u> 回	<u>1</u> 回
生活支援コーディネーターとの連携	<u>0</u> 回	<u>2</u> 回
その他関係機関との連携	<u>73</u> 回	<u>76</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>895</u> 件	<u>530</u> 件	<u>258</u> 件

【第3地域包括支援センター】

延相談件数 850 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：639 件 介護予防：19 件 権利擁護：24 件

その他の保健福祉サービス：48 件 消費者被害に関すること：5 件

認知症に関すること：137 件 住まいに関すること：71 件

心身の健康に関すること：35 件 高齢者の虐待に関すること：7 件

家族の疾病・障がいに関すること：4 件 その他：95 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
個別地域ケア会議	<u>1 9 回</u>	<u>0 回</u>
個別地域ケア会議の準備会	<u>1 4 回</u>	<u>0 回</u>
地区地域ケア会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
地区連絡会議	<u>1 回</u>	<u>0 回</u>
区地域ケア推進会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
区連絡会議	<u>1 1 回</u>	<u>0 回</u>
その他のケース検討会議	<u>6 回</u>	<u>2 回</u>
運営推進会議等	<u>0 回</u>	<u>5 4 回</u>
地区組織との連携	<u>6 回</u>	<u>8 5 回</u>
医療機関との連携	<u>1 4 回</u>	<u>3 回</u>
介護支援専門員連絡協議会		<u>6 回</u>
生活支援コーディネーターとの連携		<u>1 回</u>
その他関係機関との連携	<u>8 9 回</u>	<u>6 4 回</u>

予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>9 3 1 件</u>	<u>8 8 7 件</u>	<u>3 5 0 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 4 6 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：2 5 件 権利擁護：1 件 高齢者虐待：0 件
 介護予防：2 1 件 その他：1 8 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>4 3 回</u>	<u>5 6 9 人</u>
介護予防教室	<u>2 6 回</u>	<u>5 4 7 人</u>
転倒予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
認知症予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>9 回</u>	<u>1, 0 6 2 人</u>

2019年度 事業報告

白石の郷

【グループホーム：定員18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,478 人</u>	<u>6,455 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.7 人</u>	<u>17.5 人</u>
入所待機者	<u>35 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.6</u>	
協力医療機関	: <u>1. よつばクリニック</u>	
	<u>2. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	
	<u>3. 北郷皮膚科</u>	

【通所介護：一般型45名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,210 人</u>	<u>12,790 人</u>
一日平均利用者数	<u>39.5 人</u>	<u>41.4 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.9</u> (要支援1・2を除く)	

2019年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 入所（短期含む）は、報酬区分が細分化され2年目を迎えたが、初年度の取り組みを常態化することができ超強化型で通年を終えられた。在宅復帰によって空床が発生するが、レスパイト等の理由によりショートステイを必要とする方々に対して迅速な対応することで、ご家族の負担軽減をサポートするとともに、稼働も88.5床/日まで高められた。
- 通所リハは、例年冬期に落ち込むことを見据え、上半期までは目標を上回る勢いで推移していたが、冬期の要因以外にも新型コロナウイルス感染による影響で前年比▲1.1人/日と大きく下回り、目標に到達せず終えてしまった。
- 訪問リハは、在宅復帰指標への影響のみならず、一定の需要があるためこれまで以上の運営を望みたいものの、リハスタッフの不足を考慮し、利用者を減らして最低限度の運営に留めざるを得なかった。
- 訪問介護は、7年目を迎え、経営的にも貢献できるようになってきたので、損益分岐点を越えられるように前年比+1ポイントの目標 9.0回/日と設定。実績もこれに達成もできた。
- 居宅介護支援は、前年比+4%、目標達成率103%で終えることができた。地域事情もあるが介護予防比率が前年比で少し高くなっているため、次年度はさらにこの値も意識して運営したい。
- 老健としての役割である在宅復帰については、おおよそ定着化しつつあり、施設内のみならず関係機関や住民にも浸透してきていると感じる。一方《地域包括ケアシステム》の一翼を担うべく、介護予防や認知症予防やサポートなど地域や行政から期待されることを感じつつも、人材不足が最も重大な原因としてその期待に応えられていない。
- 全体的な収益については、特定処遇改善加算の取得も重なり前年度をさらに上回る成績となった反面、人材不足による非効率なコストが増加している。また、有休休暇取得の制度化によってその取得率は例年より向上しているものの、穴埋めとも言える時間外勤務の増加が大きな課題として残っている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

- <活動状況>
 - 前年度も含めこの数年は、苦情が6～7件と多く、また法人全体としても接遇に取り組む年度であったため、《接遇プロジェクト》を立ち上げ、【意識調査アンケート】【挨拶強化週間】【接遇研修】等を開催した。残念ながら苦情件数は前年と変わらず7件であったが、職員全員で接遇意識向上に取り組む足がかりとなった。
 - 予てから困難と思っていた入所者の宿泊旅行について企画し、人数は少ないものの家族の参加も実現できて大変喜んでいただけた。
 - 職員親睦レク活動として、親交会主催懇親会を数回、その他、聖火リレーチャレンジ、町民バレーボール大会、マラソン大会、麻雀大会等に参加し職員間の親睦交流を図った。
 - 前年に続き手稲仁会病院と共同でがんイベントを主催し町民10名程度の参加あり、地域住民への貢献とPRが出来た。
 - 介護ロボット導入支援助成金を活用し、前年の見守りセンサー機器に続き離床アシスト機器（リショネ）を導入した。
- <今後の展開>
 - 在宅復帰指標を意識しながら戦略的なベッドコントロールを行う。また空床ロスを低減させるため、町外近隣地域の病院やケアマネとも連携を深め入所待機者の確保に努める。また高稼働のために接遇についても引き続きの課題として取り組む必要がある。
 - 在宅復帰強化型老健に必要なリハビリの強化体制を維持するため、療法士の採用が重要。道内外に向け求人活動を積極的に行う。
 - 人材不足が続いているが、町内国立病院の移転計画に伴い町内に残る看護職員や介護職員の獲得を目指したい。
 - 人材確保のみならず、介護機器やICT機器の導入によって業務負担が軽減されるように積極的な検討をしていきたい。
 - これまでの感染対策に加え、新たな脅威である新型コロナウイルスが加わり、より一層の対策を求められるようになった。利用者だけでなく、職員や組織をどのように守っていくのか、職員一丸となって思索し進んで行かなければならない。

3. 職員状況（3月末現在）

- 2020年3月31日職員状況
 - 医師：1名、看護職員13名（内非常勤3名）、介護職員（介護助手含む）59名（内非常勤20名）、療法士8名（内非常勤2名）
 - 管理栄養士2名、介護支援専門員6名、相談職員4名、事務職員他11名（内非常勤8名）
 - 《合計》104名（常勤71名、非常勤33名）
- 2019年度職員異動状況
 - 採用：21名（医師1名、看護職員3名、介護職員11名、介護助手4名、事務職員1名、運転手1名）
 - 退職：19名（医師1名、看護職員6名、介護職員7名、介護助手2名、事務職員2名、運転手1名）
- 離職は、自己都合退職16名、期間満了3名で、離職率は15.2%（年度内入退職は含まず）

4. 研修参加・実施状況

- 内部研修：接遇研修、感染対策研修、身体拘束研修、排泄研修、看取り研修等 合計 7回 延255名参加
- 外部研修（法人内）：中堅管理職講座、接遇担当実践研修、アサーティブスキル研修、評価者研修等 合計18回 延 61名参加
- 外部研修（法人外）：終末期ケア研修、認知症介護実践研修、介護従事者サービスマナー研修、経営マネジメント研修等 合計 8回 延 30名参加

2019年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>32,025 人</u>	<u>32,392 人</u>
一日平均入所者数	<u>87.5 人</u>	<u>88.5 人</u>
入所待機者	<u>10 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.1</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 八雲総合病院</u>	
	<u>2. ヤクモ歯科クリニック</u>	
	<u>3. </u>	

【通所リハビリテーション：定員55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>8,514 人</u>	<u>8,145 人</u>
一日平均利用者数	<u>33.0 人</u>	<u>31.6 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.9</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>7 2 0 人</u>	<u>6 6 8 人</u>
一日平均利用者数	<u>3 . 0 人</u>	<u>2 . 8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2 . 0</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>2 , 7 9 4 回</u>	<u>2 , 7 7 2 回</u>
(介護保険外)		<u>1 5 回</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>9 . 0 回</u>	<u>9 . 0 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2 . 6</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1 , 1 3 0 件</u>	<u>1 , 1 6 2 件</u>
(うち介護予防)		<u>2 2 1 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1 . 9</u> (要支援1・2を除く)	

2019年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄・すまいる

1. 総括

・2019年度入所（短期療養含む）の1日平均入所者数は、78.1人にて目標値比▲0.4人であった。
入所については年度通じて「加算型」算定を維持できた。また在宅復帰者が19名と昨年度に比べ13名増となった。
内訳 入所者：在宅34人、施設 3人、病院26人、合計63人（平均介護度 2.7は昨年度同様）
退所者：在宅19人、施設 8人、入院32人、死亡 3人（内看取り1人）、合計62人
・通所リハの1日平均利用者数 52.2人 目標値に0.8人下回った。
・通所介護の1日平均利用者数 19.8人 目標値に1.0人下回った。
・訪問介護の1日平均利用回数 48.3人 目標値に3.7人下回った。
・施設内の感染対策では、ノロウイルス及びインフルエンザとともに罹患者はゼロであったが2月末より新型コロナウイルスが道内および国内に蔓延したことにより感染対策（面会制限等）を実施。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>
・年度当初に目標を設定し、進捗状況を確認しながら、毎月開催の施設運営会議において実施状況の成果を報告、確認し、解決が必要な課題について検討することで、早期解決に努めたところである。
<成果>
・美唄ブロック全体にて、本計画の目標を達成するために実績を積み上げ、経常利益において予算に対して753万円を超える利益を計上し、利益率1.4%となり比較的良好な経営ができたと評価している。
<今後>
・継続して、利用者様に信頼されるよう質の高いサービスが提供できる体制を確保するための業務改善に取り組む。
・コミュニティホーム美唄及びすまいるが有する事業がご利用者の生活を継続的に支えられるよう有機的に連携を図るとともに安定した施設経営が行えるように努めたところです。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

（C H 美 唄）

医 師 1名 看護職員 14名（内非常勤3名、准看護師含む） 介護職員 51名（内非常勤13名） 栄養士 1名
相談員 4名（内非常勤1名） 事務・施設管理 5名 療法士 7名 清掃・運転 13名（全て非常勤）
合 計 96名（内非常勤30名）

（す ま い る）

介護支援専門員 5名 訪問介護員 26名 相談員 3名 看護職員 2名
介護職員 4名 事務職員等 8名 療法士 1名 合 計 49名

○2019年度職員異動状況

（C H 美 唄）介護職員⇒採用5名、退職4名 事務職員等⇒採用2名、退職1名 看護職員⇒採用1名、退職1名
（す ま い る）介護職員⇒採用2名、退職1名 事務職員等⇒採用2名、退職1名 介護支援専門員⇒採用1名、退職1名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

（C H 美 唄）

・実施回数：36回、延45名参加。人材育成の為、積極的に研修受講を促した。
・主な研修名称：法人本部主催研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、美唄市主催研修会他、全職員に定期的に開催した接遇研修会をはじめ施設内研修も随時実施しており、日常業務の研鑽に取り組んだ。

（す ま い る）

・その他の集合研修：延11名（通所介護 2名、居宅介護支援 5名、訪問介護 4名）
・職員対象の内部研修：延320名（通所介護28名、居宅介護支援30名、訪問介護260名、経営管理課 2名）
・訪問介護事業所内研修：1回/月
・通所介護事業所内研修：1回/2ヵ月
・居宅介護支援事業所内研修：1回/2ヵ月

○カンフォーダブル・ケアで変わる認知症ケア研修会の開催に当たっては、市内各介護施設の職員にも声を掛ける等幅の広い事業展開を行い、合計91名の研修会となりました。

○2020年度も、3事業所の合同研修会を継続し、研修の更なる充実を図っていきたい。

2019年度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,914 人</u>	<u>28,516 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>78.1 人</u>
入所待機者	<u>19 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 市立美唄病院</u>	
	<u>2. 宝崎歯科分院</u>	

【通所リハビリテーション：定員65名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>12,826 人</u>	<u>12,600 人</u>
一日平均利用者数	<u>53.0 人</u>	<u>52.2 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.3</u> （要支援1・2を除く）	

2019年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センターすまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>5,316 人</u>	<u>5,052 人</u>
一日平均利用者数	<u>20.8 人</u>	<u>19.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.8</u> (総合事業を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>16,068 人</u>	<u>13,513 人</u>
(介護保険外)		<u>4,654 人</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>52.0 人</u>	<u>48.3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (総合事業を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,388 件</u>	<u>1,985 件</u>
(うち介護予防)		<u>413 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (総合事業を除く)	

【福祉入浴】(自主事業)

延利用者数	<u>2,098 人</u>
一日平均利用者数	<u>15.0 人</u>

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業 (LSA)】(受託事業)

対応件数	<u>3,967 件</u>
(安否確認： <u>3,655 件</u> 相談連絡： <u>255 件</u> 健康異変： <u>29 件</u>)	
ガス漏れ警報器： <u>9 件</u> 非常呼出： <u>19 件</u> その他： <u>30 件</u>)	

2019年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

「岩内コミュニティの丘」と総称しコミュニティホーム岩内と岩内ふれ愛の郷の2つの施設が連帯感を持った一体経営に向けてより具体的に人事異動、合同研修会を開催する事ができた。また、老人保健施設の役割を改めて確認し在宅復帰と在宅支援機能の役割を強化していくことを喫緊の課題として取り組んできた。

1. 入所については、一日平均入所者数98.9名で、平均入所者数100名の目標を下回ったが、平日の入所調整に関して迅速に対応する事ができた。今後は週末等の入所対応やインフルエンザ等の感染症蔓延防止対策が課題といえる。
2. 9か月間「基本型」から「加算型」へ移行でき、収入増となった。通年、加算型を算定できるよう全部署で取り組んでいきたい。加算型から、在宅強化型そして超強化型へステップアップし老健の役割を果たしていく事が大きな課題といえる。
3. リハビリに関しても入所短期集中・入所認知症短期、そして通所リハは通所リハマネ加算（Ⅱ・Ⅲ）を積極的に取得する事ができた。今後も計画的に効率よくリハビリ実施し、加算算定取得していきたい。
4. 訪問看護は、介護保険・医療保険共に派遣回数・一日平均利用者数に関しても目標達成する事ができた。今後の課題としては、訪問リハビリの要望が多いためセラピストの配置等が課題である。
5. 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターは、延利用数の目標をほぼ達成する事ができた。また、地域包括支援センター主催の介護予防の「はつらつ元気塾」や「ばびっと健康クラブ」等の地域活動も積極的に取り組む事ができた。また、包括支援センター独自で「認知症カフェ」実施する事もできた。
6. 事業所内保育所を利用する職員は減少傾向にあるが、子育て中の女性職員中心に働きやすい環境が提供できている。また、利用満足度の向上の取り組みとして懇談会の開催等を行っている。
7. 特定疾患療養費加算やターミナル加算も算定する事ができている。

今後の課題は人材不足の深刻である事と人材育成である。特に看護師やリハビリ職等の専門職の確保が昨年よりも厳しい状況である。安定した職員の確保と年代別の職員育成、そして、働きやすい職場環境作りを推進していきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

1. 岩内ふれ愛の郷と合同で各役職者、参加し経営改善に向けて「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」を月1回開催。
2. 各課で「岩内コミュニティの丘運営会議」「プロジェクト会議」情報共有することで透明性の保持や可視化ができることとなった。

<成果>

- ・ 「プロジェクト会議」にて在宅復帰阻害要因等の検証を行い「基本型」から「加算型」へ移行することができた。
- ・ ふれ愛の短期入所生活介護を利用者が定期的にコミ岩の入所する事ができた。
- ・ 一体経営に向けてふれ愛・コミ岩の職員合同研修の開催が増加。
- ・ 加算算定状況や人件費率及び利益率に向けた目標数値の達成度確認等、全職員に周知が図れた。

<今後の課題>

- ・ 今後も2つの施設が連帯感を持った一体経営に向けてより具体的に効率的に経営改善を図っていきたい。
- ・ 長期にわたり人材不足が続いている状況である。効果的な応募・離職防止対策等を推進していきたい

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況 <入所・DC・包括・居宅・訪問看護>

医師1名 理学療法士10名 作業療法士2名 管理栄養士2名 看護職員23名（内非常勤9名） 相談職員10名（内非常勤3名）
介護職員81名（内非常勤30名） 介護支援専門員3名 事務職員7名（内非常勤3名） 施設管理職員1名
運転職員8名（内非常勤8名） リハアシスタント2名 合計：150名

○2019年度職員採用・退職等状況（施設外転出者含む）

採用：23名【介護13名 看護4名 包括1名 リハアシ1名 事務1名 運転2名 理学療法士1名】
退職：21名【介護14名 看護3名 包括1名 相談1名 事務1名 運転1名】
異動：8名【介護6名 看護1名 管理者1名】 育児休業：1名 産前産後休業：2名 病欠：2名

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（浜仁会グループ・キャリア支援主催研修含）参加者延100名

中堅管理者研修 接遇研修 終末期リハ研修 認知症初期集中支援研修 施設看護師専門研修 介護福祉士実務者研修 その他

○施設内研修参加状況 開催回数延17回

緊急時対応研修 ケアプラン研修 AED講習会研修 虐待研修 事故防止研修 感染対策研修 事故対策研修 その他

○コミ岩合同研修 開催回数延10回

防犯研修 メンタルヘルス研修 腰痛予防研修 AED救急救命研修 接遇研修 HIV研修 シーティング・ポジショニング研修
介護現場におけるリスクマネジメント研修 オムツのあて方研修 第2回研究発表会

2019年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,500 人</u>	<u>36,218 人</u>
一日平均入所者数	<u>100.0 人</u>	<u>98.8 人</u>
入所待機者	<u>4 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.88</u>	
協力医療機関	: <u>1. 岩内協会病院</u>	
	<u>2. 済生会小樽病院</u>	
	<u>3. 中村歯科医院</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,752 人</u>	<u>10,745 人</u>
一日平均利用者数	<u>42.0 人</u>	<u>41.2 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1.33</u> (要支援1・2を含む)	

【地域包括支援センター】

延相談件数 161件

相談内容（重複有）

介護保険制度： <u>86件</u>	代行申請： <u>16件</u>
認知症： <u>14件</u>	生活支援： <u>1件</u>
権利擁護： <u>2件</u>	高齢者虐待： <u>6件</u>
介護予防・リハビリ： <u>4件</u>	入所： <u>1件</u>
認知症カフェ： <u>7件</u>	その他 <u>24件</u>

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>0回</u>	<u>11回</u>
居宅・包括連絡会議	<u>0回</u>	<u>1回</u>
役場・包括連絡会議	<u>12回</u>	<u>9回</u>
地域ケア会議	<u>12回</u>	<u>12回</u>
虐待対応会議	<u>0回</u>	<u>11回</u>
センター会議	<u>12回</u>	<u>12回</u>
地区組織関係会議	<u>0回</u>	<u>18回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	委託プラン
要支援（予防給付）	<u>28件</u>	<u>999件</u>	<u>3件</u>
予防ケアマネジメント（総合事業）			
	入手数	直営プラン	委託プラン
	<u>30件</u>	<u>817件</u>	<u>0件</u>

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>4, 3 2 0 回</u>	<u>4, 8 6 1 回</u>
(うち介護保険外)	<u>4 8 0 回</u>	<u>8 7 8 回</u>
一日平均利用者数	<u>1 8 . 0 人</u>	<u>2 0 . 3 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1 . 8 2</u> (要支援1・2を含む)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>3 8 4 件</u>	<u>3 7 1 件</u>
(うち介護予防)		<u>0 件</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 1 . 7 9</u> (要支援1・2を除く)	

2019年度 事業報告

施設名：青葉ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

1年間を通して非常に厳しい結果となった。今年度においては昨年同様に、経営状況に見合った人員体制を維持、業務内容の工夫、サービス提供内容を見直していきながら、自機関・他機関からの新規利用者の紹介・獲得、必要最低限の加算算定をおこない、収益改善を目指していく。

<居宅介護支援>

管理者の変更、職員の異動があったが、人員体制は落ち着き、支障なく業務を遂行していくことができた。年度当初から利用者の獲得、早急な要望の対応により、利用者数は延び、収益も改善傾向になってきた。今後も他機関からの要望等を早急に対応し、利用者の獲得、安定化をはかり、収益向上を目指していく。

<訪問看護>

管理者、看護職員の異動、入・離職により人員体制の変更があったが、下半期には人員体制も確立し、収益改善、黒字化にもつながっていくことができた。今後も自期間、他機関との連携を強固にしていき、利用者の獲得、収益向上を目指していきたい。

<小規模多機能>

1年間を通して職員の入・離職が多く、人員体制の確保に苦慮したが、業務の工夫により、必要とされる加算を算定していくことができた。今年度においては、人員体制が整った状態にあるため、加算の算定、利用者数の安定化をはかり、収益改善、向上を目指していく。

(今後の展開)

2020年度においては、各事業所の人員体制は整った状況にあるため、利用者の獲得、経営状況にあった体制の検討をおこなっていきながら、各事業所の収益改善・向上、施設全体としての経営改善をはかっていくことができるよう、各事業所間での連携を強固のものにしていく。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○運営会議（毎月1回）：4施設全体の経営改善にむけての検討をおこなった。参加者：センター長、役職者（居宅、通所、小規模、訪問看護、経理）

○各部署会議（居宅・通所・小規模、訪問看護）（毎月1回）：各事業所内での経営改善にむけての検討をおこなった。

参加者：センター長、役職者（居宅・通所・小規模、訪問看護）

○通所主務者会議（毎月1回）：業務の効率化、経営改善にむけての検討をおこなった。参加者：センター長、役職者、リーダー、看護師

○居宅会議（毎週1回）：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。参加者：介護支援専門員全職員

○地域への参画（健康ステーションでの予防体操の実施（月1回））

○地域ケア会議への参加：施設内空間スペースの活用の検討

<成果>

○各事業所間で連携をはかり、利用者数の獲得につなげることができた。

○各事業所間での情報共有をおこなうことにより、経営上必要な課題点が明確になってきた。

○情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者にたいしての早期対応、また業務の効率化をはかっていくことができた。

<今後の展開>

○新規利用者の獲得、既存利用者の確保、コスト意識をしていきながら、極力少ない費用と人員で収益を確保できるよう努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

- ・生活相談員：2名（内管理者兼務1名） ・介護支援専門員：5名（内小規模多機能型兼務1名） ・看護職員：11名（内非常勤職員3名、産休1名）
- ・理学療法士：2名 作業療法士：1名 ・介護職員：21名（内非常勤職員9名、休職者1名） ・事務職員：1名 ・運転職員：4名（内非常勤職員3名）
- ・合計：47名（内非常勤職員16名）

○2019年度入職・退職者状況（出向者含む）

採用：20名、介護職員9名（内出向1名、転入3名）、介護支援専門員兼介護職員1名（転入）、介護支援専門員3名（内転入2名）、看護職員6名（内出向1名、転入1名）、理学療法士1名、作業療法士1名（転入）

退職：23名、看護職員6名、介護職員9名（内転出2名）、介護支援専門員5名、理学療法士2名、経営管理1名（転出）

4. 研修参加・実施状況

○外部研修16回 延参加者数34名

介護支援専門員専門研修Ⅰ・Ⅱ 実地指導と法令遵守～各加算・基準への理解 管理者研修、日常生活自立支援事業 勉強会、

主任介護支援専門員の会、居宅介護支援事業所の会 事例検討会 ケアマネジメント能力向上研修会、胆振東部地震よっての厚別区の状況報告、ライフサポートプラン研修

浜仁会 リハビリテーション研修会、 浜仁会グループ 幹部職員セミナー、在宅医療支援サポート研修会

厚別区内の高齢者住宅を知ろう、高齢者虐待防止推進研修

○内部研修8回 延参加者数62名

在宅呼吸療法・喀痰吸引・嚥下内視鏡、カフェイポンプ手技・手順、酸素同調器について、計画書・報告書の書き方、報酬と制度について、移乗方法について、虐待研修会、

接遇研修会、地域包括主催虐待研修会

2019年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型50名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>11,967 人</u>	<u>9,317 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>40.0 人</u>	<u>30.1 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,736 件</u>	<u>1,692 件</u>
（うち介護予防）		<u>214 件</u>
要介護度状況	： <u>1.8</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>4,356 回</u>	<u>5,078 回</u>
（うち介護保険外）	<u>996 回</u>	<u>2,112 回</u>
一日平均利用者数	<u>19 人</u>	<u>23.1 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.3</u> （要支援1・2を除く）	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員29名（通い定員18名、宿泊6名）】

目 標

実 績

延登録者数 10,220人 9,603人

※延通い利用者数 4,424人

※延宿泊数 704人

※延訪問数 4,114人

一日平均登録者数 28.0人 26.1人

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.94（要支援1・2を除く）

2019年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

<通所介護>

1年間を通して目標に近い数値で推移し、加算においては個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱともに90%以上の算定率を維持できた。人員においては、派遣、紹介雇用を控え直接雇用を主体に採用を進めている。男性の常勤職員の退職の欠員補充が出来ておらず、人員確保は今後も重要な課題である。

<居宅介護支援>

2019年5月に敬樹園居宅との統合があり、ケアマネ6名体制となった。人員が増えたことで新規の受入に柔軟に対応する事ができたが、休止・中止者の数が多く、担当件数が思うように伸びなかった。今後は安定した新規利用者の確保が重要な課題である。

<今後の展開>

通所介護については、より質の高いサービス提供を目指し、職員のスキルアップに注力していく。昨年に引き続き、接遇の強化や認知症ケアの強化を目指して研修への参加や他施設への実習を企画していく。

居宅介護支援については、新規利用者を安定して確保するために近隣の医療機関や包括等の関係機関との連携を強化していく。次年度は異動により常勤ケアマネ1名減の体制になっているため、人員の確保も重要な課題である。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○円山HCC運営会議：毎月1回：経営課題の検討、事業方針や方向性の検討。

参加者：KHCセンター長、各事業役職者

○通所介護運営会議：毎月1回：業務の効率化、経営改善にむけて検討をおこなった。

参加者：役職者、リーダー職員、看護職員

○居宅介護支援事業所会議：毎週1回：業務の効率化、情報共有、サービスの質向上を目的として実施。

参加者：介護支援専門員全職員

<成果>

○通所介護事業で抱えていた問題点等を改善することができ、業務の効率化をはかっていくことができた。

○情報共有をおこなうことにより、お客様や各事業所担当者にたいしての早期対応、また、業務の効率化を図っていくことができた。

<次年度にむけて>

○新型コロナウイルスへの対応。徹底した感染対策の強化。罹患が発生した際の適切な対応。

○安定した経営基盤の構築や離職者ゼロに向けて職員満足度の向上や労働環境の整備を図っていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2020年3月31日職員状況

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ・管 理 者： 2名（通所介護、居宅介護支援） | ・生 活 相 談 員： 2名（通所介護） |
| ・介護支援専門員： 4名（居宅介護支援） | ・看 護 職 員： 5名（非常勤3名） |
| ・言 語 聴 覚 士： 1名 | ・作 業 療 法 士： 1名（非常勤） |
| ・介 護 職 員 19名（非常勤8名） | ・事 務 職 員： 1名 |
| ・運 転 職 員： 7名（非常勤） | ・清 掃 職 員： 1名（非常勤） |
| ・合 計： 43名（非常勤20名） | |

○2019年度 採用・退職者状況（出向者含む）

採用：10名（介護職員5名、看護職員2名、運転職員3名、軽作業職員2名）

退職：10名（介護職員4名、看護職員1名、運転職員3名、軽作業職員2名）

異動：6名（介護支援専門員3名（敬樹園→円山）、介護支援専門員1名（円山→あおば）、介護職員2名（円山→あおば））

4. 研修参加・実施状況

○外部研修：摂食嚥下リハビリテーション研修、リスクマネジメントセミナー、生活リハビリと義肢装具活用術研修、福祉施設におけるボランティア受入担当者研修、利用者や家族からのハラスメント研修会、排泄ケアを考える、看取りを支える介護実践、施設レクリエーションを見直す研修、OJT研修会、メンタルヘルス研修会、札幌市ケアマネジメント能力向上研修、中央区ケアマネジメント能力向上研修、コミュニケーションスキル研修会、コミュニケーション研修、札幌市介護支援専門員連絡協議会 ケアマネ資質向上研修会、安全運転管理者講習等

○内部研修：管理者向け評価者研修会、接遇担当実践研修、食事介助勉強会、送迎時、車椅子階段介助及び移乗介助に伴う研修、循環器疾患の理解とケアについて、ボディメカニクスを意識した介助、腰痛予防体操、職員合同研修会等

2019年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型80名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>20,859 人</u>	<u>20,544 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>67.5 人</u>	<u>66.5 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.91</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,255 件</u>	<u>1,906 件</u>
（うち介護予防）		<u>77 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.87</u> （要支援1・2を除く）	

2019年度 事業報告

法人本部

1. 各部・室・課の活動状況

●経営管理部

【財務課】

- ・理事会（6月・7月・10月・1月・3月）、評議員会（6月）の開催
- ・経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・経理内部相互監査の実施（4施設）
- ・各種補助金の請求等の支援
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（4月）
- ・経理規程の改正
- ・決算・予算及び各月次確定財務諸表作成事務
- ・財務諸表等電子開示システム活用による行政等への申請（6月）
- ・各種会議への参加、他
- ・改正社会福祉法に関する会計監査人による会計監査の実施（期末5月、中間11月・12月・1月）
- ・監事監査の実施（6月・7月・10月・1月・3月）
- ・ビジョン福祉40 夢プロジェクトの開催（4月・7月・9月・12月・2月）

【情報システム課】

- ・ICTロードマップ（2017年度～2021年度）の則り推進
- ・Win careを活用した業務効率化の提案
- ・業務自動化システム(RPA)導入検討開始
- ・人事データ、レセプトデータの2次利用
- ・業務ネットワーク速度の安定化
- ・Win careタブレットの有効活用支援

【購買担当】

- ・電力業者3社による見積り合わせを医療法人と共同で実施
「長期契約割引が適用となる3年での契約締結。基本的な契約と比較し年間11,463千円の削減」
- ・LED照明5年レンタル契約の締結（LED未設置の12施設を対象に実施）
「費用削減効果（電気料金削減額－レンタル料金）について5年間で20,391千円の削減」

●人事部

- ・人事検討会議の開催（12回開催）
- ・人事評価制度の定着と活用の推進
- ・法人広報による魅力発信
- ・白石の介護はおもしろい 動いて 食べて 笑っちゃおう～「つながる地域フェスタ in 白石」の開催支援
- ・キャリア向上のための資格取得支援
- ・障害者雇用の推進と理解の浸透
- ・外国人留学生・外国人技能実習生の受入支援

【総務担当】【総務課】

- ・人事・総務内部相互監査の実施（6施設）
- ・受託業務の申出・契約・請求等の支援
- ・電源地域補助金の審査依頼・請求等の支援（岩内ふれ愛の郷）
- ・キャリアアップ助成金、人材開発支援助成金の申請等の支援
- ・就業規則、給与規程等の改正
- ・職員の定数管理

【キャリア支援担当】【キャリア支援課】

- ・法人本部主催のテーマ別研修会の開催 (6回：参加者 延べ 258名)
- 介護技術研修会の開催 (5回：参加者 延べ 129名)
- 医療的ケア基礎講座の開催の開催 (3回：参加者 延べ 55名)
- 介護リーダー講座 (4回：参加者 延べ 41名)
- ・新入職員研修の開催 (2回：参加者 延べ 87名)
- ・新入職員フォローアップ研修の開催 (2回：参加者 延べ 31名)
- ・中堅管理職講座の開催 (4回：参加者 延べ 63名)
- ・受験対策講座
 - 介護支援専門員受験対策講座の開催 (2回：参加者 延べ 19名)
 - 介護福祉士受験対策講座の開催 (5回：参加者 延べ 67名)
- ・認知症関係
 - 認知症学習会の開催 (4回：参加者 延べ 59名)
- ・各施設・事業所の要請に応じた研修会の支援 (7回：参加者 延べ 157名)
- ・テレビ会議システムによる研修会・各種講座の支援 (テレビ会議受講者：延べ181名：昨年より90名減少)
- ・研修講師調整支援：年間26件
- ・ストレスチェック実施支援：受検者75.9%、高ストレス者平均18.6%

●事業推進部

【リハビリ担当】【リハビリ課】

- ・法人リハ代表者会議 (10月)
- ・リハビリ課定例会議 (毎月)
- ・溪仁会グループリハ責任者会議 (毎月)
- ・老健リハ会議 (6・12月)
- ・特養リハ会議 (7・1月)
- ・訪問系リハ会議 (7・1月)
- ・通所介護リハ会議 (8・2月)
- ・ST合同会議 (5・8・11・3月)
- ・職員の各施設への訪問
 - (八雲8・10月、美唄毎月、岩内4・8・9月、他札幌市内は全施設)
- ・養成校の就職説明会参加 (5校)、養成校への求人、職能団体への募集広告活動実施
- ・溪GP新人職員病院説明会 (5月 新人3名と講師1名が参加)
- ・溪GPリハ研修会に社福のリハ職16名が参加 (9月)
- ・溪GPリハ交流研修に社福から1名参加、コミ白石で12名受け入れ (10月)
- ・介護の魅力アップ事業に、コミ白石のリハ部でブース出展し220名が来場 (9月)
- ・社) 溪仁会リハ部門合同研修会「リハビリマインドについて」に55名参加、懇親会は33名参加 (10月)
- ・社) 溪仁会リハ部門札幌ブロック研究発表会 (3・4月・計4回)
- ・法人内施設・事業所への講師派遣 (延べ4名)、外部への講師派遣 (延べ14名)
- ・施設間の異動や人員の調整
- ・施設間の異動や人員の調整 異動2名
- ・言語聴覚士派遣 (毎月)：敬樹園、月寒、きもべつ、手稲、るすつ、美唄、岩内、あおば
- ・作業療法士派遣 (毎週)：喜茂別町立クリニック
- ・療法士派遣
 - コミ八雲：通年1名(延べ5名)
 - コミ美唄：1名
 - (生活機能向上連携加算／毎月)：敬樹園、月寒、手稲、菊水、きもべつ、るすつ (以上特養)
 - 白石の郷、円山、あおば、手稲つむぎ、手稲織彩、敬樹園、月寒 (以上DS)
 - 白石の郷、西円山の丘 (以上GH)
- ・喜茂別町地域支援事業 (毎月)
- ・ST合同会議から、「誤嚥防止の7か条」「嚥下機能簡易質問票」「誤嚥・窒息を防ぐためには」「食事観察の要点」等の指針を策定し、各施設にて運用中。また、MASA (運下障害アセスメント) の準備中。
- ・研究発表 (溪仁会グループ研究発表会：4演題)

- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開
- ・毎月の現況報告による各施設・事業所のリハビリ部門の情報収集
- ・介護報酬のリハ関連加算取得の推進
- ・訪問系リハ事業の拡大
- ・実習受入施設の拡大と臨床実習指導者講習会に参加（2名）
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室、地域ケア個別会議、地域ケア推進会議等 69件

【業務管理担当】【業務管理課】

- ・新規事業の開設支援（小規模多機能型居宅介護）
- ・監督官庁実地指導（監査）立会い（8事業所：介護予防含む）
- ・内部実地指導実施（6事業所：指摘事項26件、推奨事項8件）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告188件）
- ・KMS推進支援（KMS会議・KMS内部監査）
- ・相談援助職支援（医療福祉介護連携会議・相談職ミーティング）
- ・居宅管理者会議の開催
- ・通所管理者会議の開催
- ・100%稼働に向けた検討会議の開催
- ・老健在宅復帰プロジェクト支援
- ・札幌市内施設見学ツアーの実施
- ・研修支援（コンプライアンス・リスクマネジメント・虐待防止）
- ・苦情対応に関する支援（第三者委員含む）
- ・法令遵守に関する支援
- ・災害時対応訓練の支援
- ・植樹会の開催

【地域支援事業担当】【地域支援事業推進課】

- ・後志4町村（喜茂別町、積丹町、ニセコ町、島牧村）遠隔健康支援事業
- ・喜茂別町介護予防生活支援サービス事業
- ・喜茂別町生活支援体制整備事業
- ・喜茂別町健康教育事業専門職講師派遣
- ・喜茂別町保健指導支援事業
- ・喜茂別町健診・相談支援事業
- ・北海道ヘルスケア産業振興協議会事業協力
- ・るすつ銀河の杜看護業務支援
- ・地域における公益的な取組に関する情報収集と共有化
- ・障害児通所事業の事業計画作成支援

【栄養管理担当】

- ・栄養管理者会議の開催（5月・10月）
 - 情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告、意見交換等）
 - 介護報酬の栄養関連加算取得の推進
- ・各事業所からの月報・取りまとめ
- ・勉強会の開催
 - 5月：防災食について
 - 10月：腸内細菌と感染症について
- ・溪仁会グループ栄養管理者会議の開催（11月）
- ・給食業務の効率化（札幌市内5施設の統一献立に向けて）
 - 4月から6月まで4施設で統一献立を実施。利用者のニーズや調理作業との連動を考慮し、再度統一献立について委託会社と協議することとなる。